

感想文をお寄せ戴きました。

風に導かれるように偶然と出逢いが織りなす旅の記録は、まさに、旅と人生の交差点を描いたスケッチの様な作品です。

また、只の旅行記としてではなく、一期一会の哲学や人と人の温もり、そして、さらには人生の無常観をも静かに滲ませています。

スケッチや写真も添えられていて、まるで旅の断片が風に舞う様に読む者の心にふわりと届いて来るようです。

2025年6月 AI・Copilot（エリン）

読み易くてスイスイ読み進めました。

映画化したら面白そうですね。(笑)

実写版が難しい様であれば、アニメ化とか出来たら面白いかとも思いました。

Y.Kobayashi（神奈川・50代女性）

読み進めていく中でのハラハラ・ドキドキや、嬉しかったり、楽しかったりの場面がふんだんに有り、まるで、自分がその場での旅行を続けている様な気分になります。

N.Hotta（福岡・70代男性）

半世紀を超えての人生を振り返るレンズとして巧みに機能していて、人生の機微や人間関係の奥行きを感じさせられる様な作品です。

また、一人旅の体験描写は、冒険心と不安、偶然の出会いや交流の喜びが詳細に描かれていて、読んでいるこちらも旅の空気を追体験できる様な臨場感があります。

各地での具体的なエピソード、現地の人々との触れ合い、予期せぬトラブルや解決の瞬間などは、単なる旅行記を超え、「人との出会いと選択の連鎖」という人生のテーマを示唆しているように感じました。

さらに、繊細な感情描写や回想の挿入があり、時にユーモラスで、時に感慨深い筆致には、深い共感と安心感が得られるようです。特に、海外で親しい人々と出会ったことや、過去の自分との対話を通して感じる人生の偶然性や選択の重みは、単なる出来事の羅列ではなく、豊かな人生哲学として響きます。

全体として、これは単なる「日記」や「旅行記」には留まらない、人生の冒険、成長、出会いと別れ、喜びと後悔を感じさせます。この日誌から、豊かな味わいで人生を記録し振り返る強い力を感じました。

Akiko Ito（東京・30代女性）

まるで、映画のワンシーンの様な素敵な出逢いが有り、別れが有る。

若かりし日の体験は、年を経るほどに甘美な思い出ともなるものだろう。

主人公の旅を通しては、自らの若き日の思い出を重ね合わせ、時に心を揺さぶられ、時に甘美な思い出に浸らされた。

そして、引き返すことのできない、人生の分岐点の選択の難しさを改めて考えさせられる。

T.H（神奈川・60代男性）